

令和4年度 事業計画

事業概要

【期 間】

令和4年4月1日から令和5年3月31日

【概 要】

当財団は公益法人として、公益法人制度の趣旨に鑑み、公益性の高い法人運営を行っていく。
普及啓発事業においては、田んぼ体験や観察会の開催など野外における体験学習を実施するほか、持続可能な開発目標：SDGsに関連した「ビーチコーミング」を新たに実施する。また、「マリンピアカレッジ」と称し、様々な分野の専門家や研究者を講師として招聘し、講演会や体験プログラムを実施する。その他、学校団体等を対象とした校外学習や出張授業、学校向けワークシートの制作・提供などを通し、教育施設との連携を引き続き図っていく。

調査研究・保護継承事業においては、野生水族に関する生息調査等を行い、地域の自然史に関する知見の蓄積に努める。

水生生物の展示及び飼育事業（水族館事業）では、5年間の指定管理期間のうち4年目の管理運営を行う。充実した施設を活用し、豊富な経験・知識・技術を持った職員による適切な管理運営に努める。また、次期指定管理期間に向け今年度から準備を進め、健全な法人運営ができるように、引き続き新潟市水族館の指定管理者を目指す。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、再び臨時休館や事業の中止などの措置を講じる可能性があるが、新潟市水族館の指定管理者としては来館者の安心・安全を第一に考え、新潟市水族館の設置目的と「新潟で一番愛される施設」という私たちのビジョンを達成するため、一層の来館者の満足度向上に努める。

【事業名】

公益目的事業

- 1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業
- 2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

収益事業

- 1 施設管理に付帯する事業

公益目的事業

1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業

【事業目的】

新潟における海洋・河川文化の現状や変遷を調査研究及び情報発信することにより、海洋・河川文化及び海洋・河川等、人との関わりの大切さを後世に継承し、併せて地域社会の持続的発展の担い手を育む。

【主な事業内容】

(1) 海洋・河川文化の普及啓発

区 分	名 称	プログラム等	内 容
体験学習	田んぼ体験	田植え	稲作体験（田植え・稲刈り・脱穀）と、収穫したわらを利用したわら細工体験を通して、新潟での稲作の文化、田んぼの環境や生息生物と人との関係を学ぶ機会とする。
		稲刈り	
		脱穀	
		わら細工	
	野外観察会	貝の標本づくり	地先海岸で参加者が貝の採集を行い、採集した貝を用いて種の同定方法と標本作製の手順を学び実践する。
		潟の観察会	潟と周辺の水路で水生生物を採集し観察する。生物だけでなく、潟の環境や生態系などについても解説する。
	SDGs	ビーチコーミング	地先海岸を散策しながら打ち上げられた漂着物を収集・観察し、環境問題を考える機会とする。
講演会	マリンピアカレッジ	柳都新潟 森と海をつなぐ川沿いの森林	・講師：日本自然環境専門学校講師 指村菜穂子氏 ・川沿いの森林の生態と機能について解説し、ヤナギの葉や花、果実を観察して種類の見分け方を学ぶ。また、葉っぱのしおり作製や、花を顕微鏡で観察する。
		通し回遊魚	・講師：新潟大学 佐渡自然共生科学センター海洋領域 准教授 飯田碧氏 ・佐渡の河川に生息する魚類（ハゼ/カジカ/アユ類等）を中心に、海と川を行き来する通し回遊性魚類の生態について紹介する。
		トゲウオ	・講師：新潟県内水面水産試験場長 樋口正仁氏 ・トミヨ属淡水型やニホンイトヨなど、新潟でなじみ深いトゲウオ類の生態や現状について、研究の第一人者である樋口氏を講師に招いて講演を行う。
各種施設との連携	出張展示	市場まつり 県主催イベント 科学教室 など	館外へ出張して、水生生物の生体展示、活魚輸送車の展示、缶バッチの作製、写真を用いたクイズ大会・ワークショップなど楽しく学ぶ機会を与える。
		総合学習の受入	水に棲む生物の飼育環境に関する情報を学校からの質問に合わせて、写真や資料を用いて講義する。
	学校教育施設連携	実習生の受入	専門学校生、大学生を対象に飼育実習、獣医実習、博物館実習を行い、実際の中で飼育技術や展示技術などを学んでもらう。
		教育現場への講師派遣	アウトリーチ事業の一環として、野外での観察などの指導や生物や仕事についての講義・指導を行う。

(2) 海洋・河川文化の調査研究

区分	名称	内容
研究発表	J A Z A（日本動物園水族館協会）関連	水族館技術者研究会、海獣技術者研究会、イルカ会議など
	J A A（日本水族館協会）関連	トレーニングセミナー、水族館研究会など
	その他研究会・学会	日本動物園水族館教育研究会、さけます等栽培対象資源対策事業など
各種会議	J A Z A 関連	設備会議、事務主任者会議、生物多様性委員会、種保存会議など
	J A A 関連	寄鯨会議、広報セミナーなど
	その他会議	新潟県博物館協議会、大都市動物園水族館事務主管者会議、新潟市里潟研究ネットワーク会議など

(3) 海洋・河川文化の保護保全（生物種の保全を含む）

区分	名称	内容・回数
生息域内 保全	シナイモツゴ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・2回
	ホトケドジョウ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・1回
	コシノハゼ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・5回
	キタドジョウ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・2回
	ハクバサンショウウオ調査	県内の両生類の生息調査・2回
連携調査	R O V（水中探査機）	佐渡海峡深海生物調査・1回（ふくしま海洋科学館との共同）
	親子魚探検（五泉・新発田）	生物多様性保全ネットワーク主催の自然観察会への講師派遣・2回
	水あぶり（関川）	タランベクラブの自然観察会への講師派遣・1回
	スナガニ調査	長岡市科学博物館との共同調査・15回

2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

【事業目的】

新潟の自然環境とそこに生息する水生生物の展示を基礎としながら、多種多様な環境の生物を展示し、各種体験型プログラムを実施することで、市民が海洋・河川や水生生物などに親しむ機会の充実などを図り、海洋・河川に関心を持つきっかけとなる機会を創出する。

【主な事業内容】

(1) 水生生物に関する知識の普及振興

名称	プログラム	内容
企画展示	新潟のタナゴ（春季）	新潟県に生息するタナゴ亜科魚類 4 種と新潟県では絶滅とされながら生息が確認されたゼニタナゴなどを生体、標本、パネルを用いて展示する。
	クマノミ（夏～秋季）	クマノミについて、生体やパネルなどを用い、生息環境や生存戦略などを紹介する。
	フォトコンテスト（冬季）	新潟市水族館で撮影した写真を公募し、コンテストを実施する。また、コンテストの受賞作品を展示する。
	カマイルカ（春季）	新潟市水族館で観察されたカマイルカの妊娠・出産・仔育て・仔の成長を通して、生態を紹介する。
いきもの教室	イルカを調べてみよう	イルカの飼育業務の見学及びイルカの観察を行い、イルカの体のつくりや生態について学び、理解を深めてもらう。
	海の水・陸の水・水族館の水	水族館の水がどこから来ているのかをツアー形式で見学する。淡水、海水など水族館で扱う様々な水について学ぶ。
	ペンギンの羽	ペンギンの羽に注目し、羽の標本を作製する。また、生態や繁殖について解説する。
	鳴き声に注目	イルカやペンギンなど、いきものが出す様々な音を聞き、その時の動物がどんな状態、特徴を持つのかを考えてもらう。
	サメの解剖	サメの外側と、解剖して内側の体のつくりを観察する。
	魚の解剖	魚の外側と、解剖して内側のからだのつくりを観察する。また、生体の観察も行う。
大人向け教室	写真教室	フォトコンテストとの連携で撮影の工夫について職員がレクチャーし、楽しみの幅を広げる。
	水族館講座（4回）	水族館の飼育システムや飼育生物についてのレクチャー、水族館の役割、生物多様性の話、参加者によるワークショップなどを行う。また、年間パスポート保有者、障がい者など対象を限定としたプログラムとする。
特別ガイド ツアー	ナイトツアー	通常観ることのできない閉館後の夜の水槽の様子を観察してもらい、昼と夜での生き物の活動の違いや外観の変化等をツアーガイド形式で解説し、水生生物の生態や自然環境への関心を深めてもらう。
参加型イベント	にいがたフィールドガイド	にいがたフィールドを用い自然環境と希少生物の域外保全を紹介する。季節変化を感じられるように定期イベントとする。
	育成室開放	通常入室できない本館地下の育成室を、職員立ち合いのもと入館者に開放する。
	イルカバックヤードミニガイド	イルカ飼育設備のバックヤードやステージを解説しながら案内し、イルカの生態について伝える。

記念日イベント	ペンギンの日	4月25日は世界ペンギンの日とされている。普段の展示を見るだけではわからないペンギンの生態や野生の現状について理解を深めてもらう。
	カワウソの日	5月の最終水曜日は世界カワウソの日とされている。カワウソ類の生態や、野生の生息状況などを解説パネルで展示するとともに、ユーラシアカワウソについての解説を実施する。

(2) 水生生物の収集、飼育、展示

区分	名称	内容・回数
飼育展示	館内での飼育展示	600種30,000点を越える飼育規模を維持
常設解説	イルカショー	イルカの認知、行動能力などを解説する・4～5回/日
	マリンサファリ給餌解説	トドに餌を与えながら、体のつくりや生態について解説を行う・2回/日
	ペンギン解説	ペンギンの分類や生態、生息地の環境について解説を行う・2回/日
	日本海大水槽解説	大水槽の展示生物の紹介や海洋環境に関する知識の普及、水族館のしくみを解説する・1～2回/日
	磯のいきもの解説	磯のいきものについて解説を行う・1回/日
	アクアラボ体験プログラム	C C D 顕微鏡や大型モニターを用いて海の生物の実験的な解説を行う・1回/日
生物収集	相模湾乗船	サクラダイ、シキシマハナダイなど乗船釣り採集・1回
	佐渡乗船	エビカゴ漁乗船採集（深海生物）・2回
		定置網乗船採集（シイラなど）・5回
	寺泊乗船	刺し網漁乗船採集（アカムツなど）・5回
		定置網乗船採集（アオリイカ・アカカマスなど）・5回
		底引網漁乗船採集（ニギスなど）・1回
	出雲崎（アマモ採集）	アマモ場生物採集・10回
	能生乗船	ベニズワイ漁乗船採集（深海生物）・1回
	間瀬乗船	ハツメ・シキシマハナダイ・アカムツなど乗船釣り採集・3回
		底引き漁乗船採集（アラなど）・4回
	地先潜水採集	マナマコ・イトマキヒトデ・チャガラ・ナベカなど・3回
	和歌山県（串本）	スマ・ムツ・タカベなど輸送・2回
	島根（隠岐）	ハガツオ輸送・1回
	新潟県内淡水生物採集	カジカ大卵型・アブラハヤ・タナゴ類・水生植物など・5回

生物交換	ふくしま海洋科学館	活魚車による輸送・5回
	東海大学海洋科学博物館	活魚車による輸送・1回
	のとじま臨海公園水族館	活魚車による輸送・1回

収益事業

1 施設管理に付帯する事業

【事業目的】

施設利用者に対する利便性を図るため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置を行う。

【主な事業内容】

区分	設置数・場所
レストラン	1ヶ所・本館2階
軽食	2ヶ所・屋外、屋上 ※季節・天候により営業中止
移動販売車	1ヶ所・アプローチ棟手前 ※季節・天候により営業中止
売店	1ヶ所・アプローチ棟
自動販売機	19ヶ所・館内、屋外各所
ロッカー	1ヶ所・アプローチ棟
記念メダル	2ヶ所・本館1階
プリクラ	1ヶ所・水辺の小動物